

銀杏

発行所

〒792-0835
新居浜市山根町8番1号
曹洞宗瑞應寺専門僧堂
編集発行人 村上 徳 存
電話(0897)41-6563
FAX(0897)40-3127

毎月1日発行
(振替 01330-2-31918)
瑞應寺
印刷所 東田印刷株式会社

碧巖録物語独語【十四】

後堂 門原 信典

三教老人の序③

「人人をして、巻簾、聞板、豎指、触脚の際、大事を了脚す、文字何ぞ有らんや」

先ず長慶慧稜禪師の「巻簾（簾を巻く）」のお話です。

道元禪師は正法眼蔵行持の巻に次のようにお示しです。

「長慶の慧稜和尚は、雪峰下の尊宿なり。雪峰と玄沙

とに往来して、参学すると僅に二十九年なり。その

年月に蒲団二十枚を坐破す。いまの人の坐禅を愛するあ

るは、長慶をあげて慕古の勝躑とす。したふはおほし、

およぶすくなし。しかある

に、三十年の功夫むなしからず、あるとき涼簾を巻起せしちなみに、忽然として大悟す。

三十来年かつて郷土にかへらず、親族にむかはず、

上下肩と談笑せず、専一に功夫す。師の行持は三十年

なり。疑滞を疑滞とせること三十年、さしおかざる利機といふべし、大根と

いふべし。勵志の堅固なる、伝聞するは或從経卷なり。

ねがふべきをねがひ、はづべきをはちとせん、長慶に

相逢すべきなり。実を論ずれば、たゞ道心なく、操行

つたなきによりて、いたづらに名利には繫縛せらるゝなり」

長慶慧稜禪師（八五四～九三二）は、雪峰禪師とその

法を嗣がれた玄沙禪師とに参じて約三十年の坐禅をされました。道元禪師の時代に

坐禅を志す人は、必ずその修行をお手本にされ「慕古の勝躑」と言われていました。「勝

躑」とは勝れた足跡です。

平成十四年（二〇〇二）に行われた道元禪師の七五〇

回大遠忌のテーマは「慕古」でした。これを「稽古」とも

言います。もともとの意味は「古からの道・修行を慕い

実践することです。

「巻簾」は「涼簾を巻起せしちなみに、忽然として大

悟す」と云う箇所です。

僧堂の前門と後門に簾をかけます。夏は竹で編んだ

簾を下げ、涼簾と云います。冬は厚い綿布で出来た簾を

かけ、これを暖簾「のんれん」と読み「のれん」のもともとの意味です。

また簾は、聖なる領域と

俗なる領域を結界する意もあるようですが、確かに僧堂には一般の人は入れません。

曹洞宗では坐禅堂ではなく僧堂と言います。

坐禅だけではなく食事も睡眠も修行として堂内で勤めるからです。

長慶禪師が、ある夏の日

に僧堂で坐禅をされていた途端に「世界が見えた」と

大悟されたと伝えられています。この世界が私、私が

世界。私と私以外の世界を遮っていた結界が簾を巻き

上げることによって消えた。簾を巻き上げると、鳥のさ

えずりと同時に夜が明ける初夏の風景かな？と想像します。

しかし、これはその時だけの風景ではありません。三十

年間、坐蒲を二十枚坐破されるほどの坐禅。この三十年は

やろうと思つて出来る事ではありません。長慶禪師のこの

三十年の専一の辦道こそ不立文字の修行です。

近年葬儀で思う事があり

ました。

コロナ禍の為「病院や施設に家族が入院、入所しても

面会もお見舞も出来ない。病院や施設からお亡くなり

になられました。と電話が入っただけで、最後の看取りも出来なかつた」と悔し

い、辛いお気持ちを何度もお聞きしました。

私は「その悔しい、辛い思いはどこから来るのでしょうか。嬉しい時も悲しい時も、

元気な時も病気の時も、故人と共に過ごした掛け替えの無い日々が在つてこそ生

まれる思い。ですから尊いことです。そして、それは

お互いに、なくてはならない存在として、支えあつて

生かし生かされていたという生命の証しです。それが

合掌の姿です」と話します。

故人との全ての出会いとご縁に思いを寄せていただき、別れの悲しみ苦しみ、

そしてお見舞も最後の看取りも出来なかつた事も、供

養を通じていつの日か感謝と報恩の心に育てていかれ

るように願います。亡き人との縁を思うと今だけの関わりではありません。無限の生命、無限の時間、無限の空間、そして無限の出会いがあつてこそ縁です。筆舌に尽くせない事です。

私は一光老師に「瑞應寺に四十年通え、四十年坐れ」と示されましたが、ただ坐禅から離れぬ思いだけで、中途半端でとても専一の辨道とは言えません。

永平寺での安居から、瑞應寺に参禅に通い、一光老師、通元老師、諸老師方の修行のお姿に憧れ、少しでも近づこうと志しましたが、機根も修行力も劣り、慕う心は大きくとも、及びもしません。これは自分自身が痛切に感じています。

しかし、この迷中又迷の四十年が、間違いなく私を「後堂」と云う配役に導いてくれたのです。

さらに長慶禅師の三十年の郷土（本家郷）は修行道場、それが「郷土に帰らず」という表現になります。そこに

は世間的な親子家族の今生だけの恩愛をもはるかに超え、刹那的な馴れ合いでは無く、同じく修行する道友と共に永遠の辨道。これこそが真実の報恩行であり、坐禅の姿だったのです。

道場を離れてしまえば修行する心も同時に離れてしまふのでしょうか。しかし、得度を受け、安名（僧としての名前）をいただき、ひとたび僧堂での佛行に身心を預けたならば、「郷土にかへらず、親族にむかはず、上下肩と談笑せず、専一に功夫する」心構えを忘れてはならないのです。そこに常に懺悔と誓願を忘れず、親子親族友人さえも成佛道に導く名譽でも、損得でも、世渡りでも無い、ましてやお寺の後継ぎでも無い、真の佛弟子の生き方があるのです。

「祖師の之恩は、父母にもすぐるべし（勝れ）、祖師の慈愛は親子にもたくらべざれ（比較できない）」正法眼蔵行持（続く）

テレホン法話（〇八九七 四一・〇〇三三） 禅のたより



◆ 不殺生戒

私の長男はこの夏で四歳になります。蟬やバッタ、トンボ、メダカやイモリなど、いろいろな生き物に触れることが大好きで、夕方まで近所で虫捕りやサワガニ捕りをしています。幼稚園から帰るとすぐに私のところに来て虫を捕りに行くと言います。

幼児期に草花や小さな生き物に触れるという体験は、豊かな感受性の発達をうながすといわれているそうですから、なるべく長男の求めに応じるようにしているのですが……。実は私、子供の頃に多くのカブトムシを捕まえて飼って、みたものの、世話をしなかつたせいでそれらのカブトムシを死なせてしまったという苦い経験があります。

虫捕りをする、どうしてもそのときのことか頭をよ

ぎつて、虫捕りで捕まえた虫たちにとっては、ひと夏の間しか生きられない短い命なのに、それを見かねたかこの中にとじこめて過ごさせるといふことに、なんともいえない抵抗感を抱いてしまうのです。

仏の道歩む上で最も基本的な教えに「不殺生戒」という戒律があります。『むやみに生きとし生ける物の命をそこなわず』という、自分の命はもちろんの事、自分以外のあらゆる命あらゆる物を大切にせよという教えです。

私は、その教えを四歳の子どもにも分かりやすいように伝えたいので、飼ひ方のルールを決めてから虫捕りやサワガニ捕りをするにしました。そのルールとは、

一、トンボなどのように長生きしない昆虫はその日のうちに逃がすこと
一、魚のように生きる為の十

分な環境を整えられない生き物はその日のうちに逃がすこと

一、イモリやサワガニも家族がいるはずだから二泊三日でいったん帰省させてあげること

以上の三つの約束です。

この虫捕りのルールを決めたことで私の気持ちも軽くなり、一緒に虫捕りを楽しめるようになりました。捕まえた昆虫やサワガニ、イモリなども二泊三日の夕方には、「ありがとね。また遊ぼうね」と言ってお寺の庭や近くの水路に逃がしてあげます。

生活の中に「不殺生戒」というひとつの戒律をとり入れることで、私が嫌だった虫捕りも長男と一緒に心から楽しめるようになりました。戒律を守るということは、自分の生活を縛るためのものでなく、よりよく充実した生活をさせてくれるものでもあるのです。

愛媛県 宗光寺 岡 芳樹師
令和五年八月十二日〜二十日

◆ 自分の行いを顧みる

私が身につけたい習慣の一つに片付けがあります。実は私、檀家さんや近所の方が目にするところの片付けはきちんとできるのですが、自分の部屋などのプライベートな場所の片付けが苦手です。

自分の部屋を片付ける時は、物を三つに分けるようにします。大切な物、まだ使える物、処分する物です。まだ使える物は押し入れの奥や車庫などに押し込んでいたのですが、先日ついに押し入れや車庫もいっぱいになってしまいました。今までは処分すべきものは処分して、残りは何処かに押し込んで、部屋の掃除を終えていたのですが、ついに押し込む場所もなくなってしまうのです。

そこで、妻の提案で、本や着なくなった服など、不用なものを車いっばいに詰め込んで、リサイクルショップに持ち込みました。すべての物を買取査定してもらい、値段がつかない物も全部引き取ってもらいました。リサイクルショップからの

帰路、私は妻に「リサイクルショップも遠かったし、町内のクリーンセンターで全部処分してもらった方が良かったかな？」と言いました。すると妻は「私はそんなことないと思うけどね。まだ使える物を捨てることのほうが嫌だし、今日引き取ってもらった物は、まだ誰かが使ってくれるんだから。」その言葉を聞いて私は、買取価格の低いことをずうつと気にしていた自分が恥ずかしくなりました。

道元禅師の教えの中に『脚下照顧』という言葉があります。自分の足元を顧みて照らす。自分の行為を見つめなおして物事を行いなさいという意味です。自分の損得ばかりを考えていると、自分の行為を顧みることを忘れがちになります。

今回の一件では「物に溢れている時代とはいえ、物を捨てるのは簡単ではない」ということに気づかされました。そしてもうひとつ気づかされたのは「物を買うときには、本当に必要なもののかどうかを吟味して物を買う、それが不要に

なったときには安易に捨てるのではなく、それを使ってくれる人はいないか？それを他に利用する手立てはないかと、もう一度自分の行いを顧みなければ、本当に使い切ったとは言えない」ということです。

それぞれの行動を起こすときにはまず『脚下照顧』。自分を見つめなおしてみることが大切です。

愛媛県 宗光寺 岡 芳樹師
令和五年八月二十一日〜三十日

◆ 絛子

お坊さんが道中に胸の前に掛けている小さな御袈裟を絛子といます。その裏側には、お師匠様や尊敬する方丈様から、お経や禅語などを墨書して頂き、常に身につけて自分の指針とする習わしがあります。

瑞應寺ではその絛子を自分で裁縫することも教えて頂きます。修行を終えてから初めて自分で裁縫した絛子を先住の通元老師様に、裏書きして頂きました。自分の氣にいった言葉をお願いすることも出来ますが、私

は老師様に「お任せいたします」とお願いしました。

完成したから取りにおいでなさいと、お部屋に伺うと「上手に縫ったのう」と仰りながら、坐禅をするお坊さんの絵を添えて、道元禅師様のご道歌の墨書を頂戴しました。

「愚かなる 我は仏にならずとも衆生を渡す 僧の身ならん」

このお歌は、「自分が成仏に至らずとも、人々を先に成仏へ導くことが、お坊さんとして大事なことだぞ」とのお示しです。

またある時、修行中にご指導下さる別の方丈様からは、

「あなた方は、いずれそれぞれのお寺の住職として、そのお寺とお檀家様をお護りする大事なお役のお一人お一人。それと心得て励みなさい」

とも教えて頂きました。

二十代半ばの私の心の内には、僧侶としても人としても経験の足りない力不足の者が、果たして人を導くことが出来るのだろうか、不安に思ったものでした。その不安は、そのお役に対しての覚悟が定まらない自信のなさから来るように思われ

て、この絛子がすり切れるくらいに、大事に身につけて使わせて頂こうとしました。

今、縁あつて雲水さんと一緒に修行する機会を頂きながら、その時の気持ちを思い出しています。

人を説得する時には、まず自分を説得し信ずることができないでは到底かなわない。自分を信ずることが出来るには、信ずる自分にかような修行を続けなくてはならない。力不足の自分にも、頑張ろうとする人の背中を押しすることは出来るかもしれない。

二十年経ち、気付けば絛子の裏書きもすり切れてきました。一昨年の秋、もう一度通元老師様に絛子の裏書きをお願いしました。

蓮の華の絵を添えて、「世の中に必要でないものは一つもない」と、墨書して頂きました。

また、心の内に繰り返し響かせて大事に使わせて頂こうと思っています。

瑞應寺僧堂知客 家古谷光祥
令和五年九月一日〜十日



開山忌

恒例の御開山忌、当寺開山白翁長傳大和尚より五世再中興月庭要傳大和尚の報恩供養。十一日より市内を報恩托鉢。廿一日(木)、逮夜特為献湯、古位牌等焼却供養が厳修し、翌廿二日(金)略朝課罷、献粥諷經、午時に正當献供諷經が厳修された。兩日ともに、檀信徒先亡回向を修行し、総代様、梅花講員様はじめ檀信徒多数参拝。



開山忌献粥諷經



開山忌報恩托鉢



檀信徒先亡回向

寶篋印塔供養

九月廿三日(土)、村上山主以下山内大衆合山にて、瑞應寺西墓地の永代供養塔「寶篋印塔」の供養法要が厳修された。

九月の日鑑

一日 祝禱
三日 日曜参禅会
五日 参玄会(七日迄)
十五日 祝禱・略布薩
十八日 觀音講・勉強会
廿一日 開山忌逮夜
廿二日 開山忌正當
廿三日 寶篋印塔供養
廿七日 益友会供養
廿八日 両祖忌逮夜
廿九日 両祖忌正當
卅日 略布薩

十月の予定

一日 祝禱
住友供養
二日 中国人殉難者慰霊祭
八日 日曜参禅会
十日 参玄会(十二日迄)
十五日 祝禱・略布薩
十八日 觀音講・勉強会
廿一日 略布薩



鐘聲

瑞應寺に入室して四ヶ月がたちました。入室したての頃は、お勤や坐禅等、初めてのことが多く僧堂生活に慣れることが精一杯でした。多くの失敗や苦悩もありました。しかし、同安居や古参和尚さん、役寮さんの方々の助けがあったため、以前よりは、僧堂生活に慣れることができ、ここまで来ることができました。この僧堂生活は人生の中でも大いに役立つと思っています。自分の成長のためにも精一杯この生活を過ごしたいと思います。

鐘司 多聞



僧堂内朝課

瑞應寺専門僧堂

安居者募集

安居を希望される方には、掛塔志願書を送付致しますので、左記にご連絡下さい。

〒792-0835 愛媛県新居浜市山根町八一
電話(〇八九七)四一・六五六三
FAX(〇八九七)四〇・三一二七